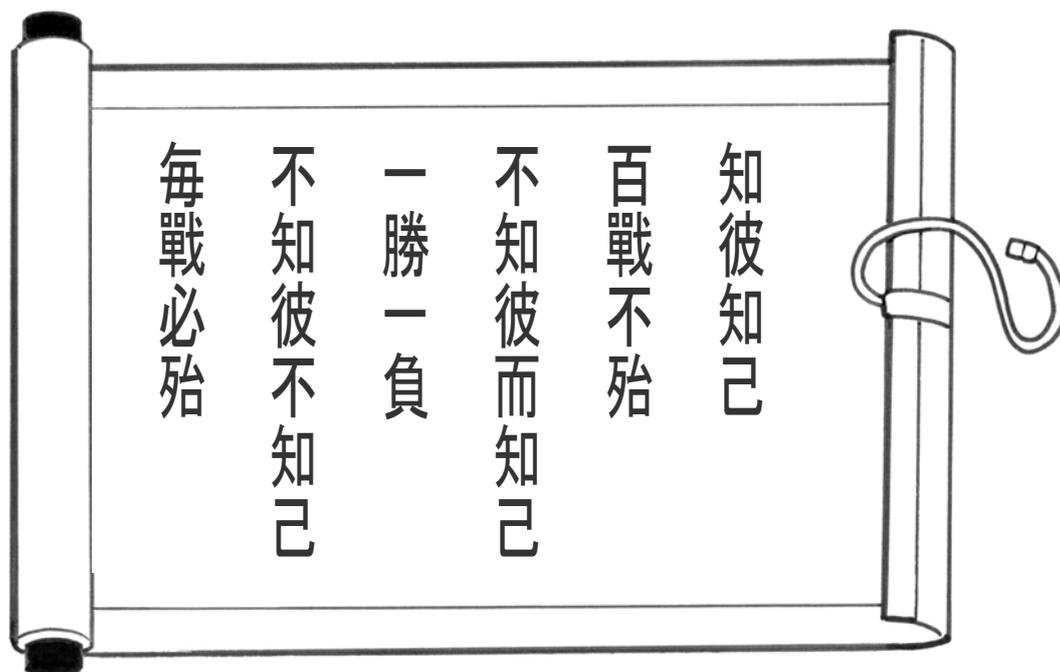


就活へ！はじめの一步

敵を知り己を知れば百戦危うからず

講師用手引き

ver. 2.0



監修



財団法人 海外技術者研修協会

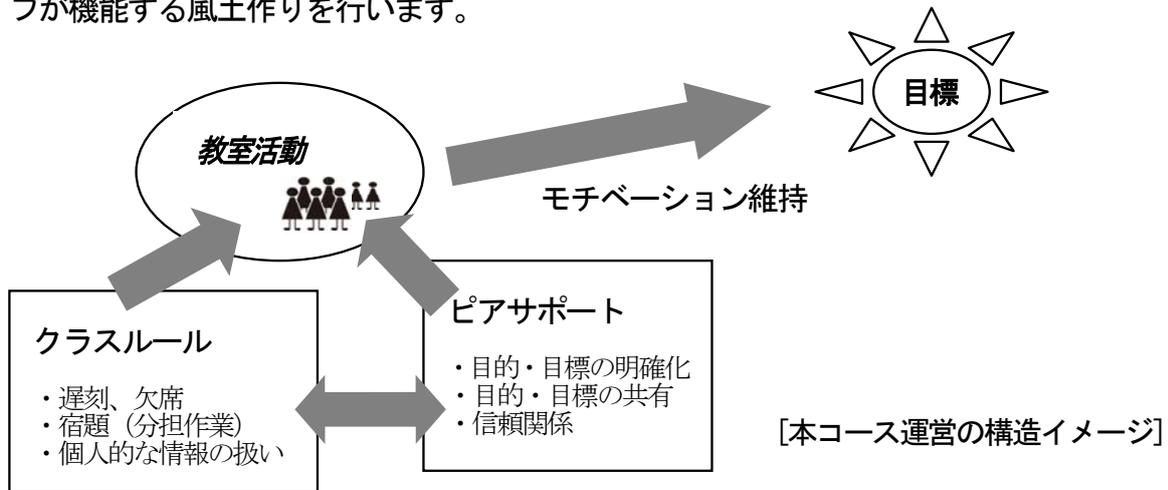
学習スケジュール

◆はじめに（目的、スケジュール、評価方法）	3
Part 1 オリエンテーション	
第1回 オリエンテーション（1）就職戦線に勝つ！	7
第2回 オリエンテーション（2）就活スタート！	10
Part 2 戦況を知る	
第3回 戦況を知る（1）情報を収集する	13
第4回 戦況を知る（2）先輩達はどのように就活を勝ち抜いたか	15
第5回 戦況を知る（3）就職内定者から生の情報を得る	18
Part 3 敵を知る	
第6回 敵を知る（1）企業とコンタクトを取る	21
第7回 敵を知る（2）企業が求める人材像	24
第8回 敵を知る（3）求められる人材像とは	26
第9回 敵を知る（4）企業の人事担当者に聞く	29
第10回 敵を知る（5）筆記試験	32
第11回 敵を知る（6）一般常識 試験体験	35
Part 4 まとめ	
第12回 己を知る（1）自己の現在を評価する	37
第13回 己を知る（2）私の就活プランはこれだ！	40
第14回 いざ出陣！これが私の就活アクションプランだ！	43
◆各回のキーワード	45

◆ はじめに

1. プロジェクト型授業の運営～グループを機能させる

プロジェクト型授業の成功は、グループがいかに機能するかにかかっているといっても過言ではありません。プロジェクトの目標を支えるのは、その前提となるグループ(クラスとクラス内グループ)メンバー同士のピアサポートによる精神的安定とルール遵守による環境の安定という両輪が必要であると考えます。そこで、初日にグループが機能する風土作りを行います。



ピアサポート関係構築

ピアサポート環境の実現は、学生にとっては精神的支えや情報共有の環境、ひいては社会人基礎力の涵養を、また教師にとってはコース維持機能が期待できます。まず、オリエンテーションでの簡単なワークでイメージを持ち、コースを通じて振り返りを行うことでピアサポート力を養うことを目指します。

クラスルール

活動ルールを学生自身がクラス内で決めることにより、プロジェクト型授業の運営を可能にします。具体的には、遅刻・欠席、課題や分担作業の履行、活動内で交わされた個人的な情報の扱い(就職活動中の悩み、相談、結果など)についてのルールを自主的に決め、安心して参加できる環境整備を図ります。

モチベーション維持

目標を明確化し共有することは、ピア関係構築およびルール遵守の風土を維持するために不可欠です。そのため、常に掲げて意識できるような言葉を準備し、クラスでのモチベーション維持に役立てます。

2. テーマは孫子の兵法

就職戦線という言葉があるように、就職活動は戦争にも似た熾烈な競争にさらされます。一方、就職活動のさまざまな方略を見ると、戦略性が必要であることがわかります。今回取り上げた孫子の言葉は、古今東西、多くの人に読まれ実践されてきたアジアが世界に誇る兵法書であり、現代社会ではビジネス書としても世界中のビジネスリーダーの間で強い支持を得ています。その中の言葉を学生に就職戦線に置き換えて見せることで、力強い指針として示します。漢語を日本語で語ることができること自体に、学生たちが強い共感とモチベーションを持ってもらえれば幸いです。

知彼知己	彼を知り、己を知れば
百戦不殆	百戦殆うからず
不知彼而知己	彼を知らずして己を知るは
一勝一負	一勝一負す
不知彼不知己	彼を知らずして己を知らざれば
毎戦必殆	戦う毎に殆うし

3. 授業内容

第1～2回：オリエンテーション

就活全般の流れとコース概要を知る。また、ピアサポート理解とグループ運営のためのルール決めをタスクを通して扱う。

第3～5回：戦況を知る（情報収集）

就職に関する初期情報の収集法を学ぶ。留学生の就職状況、就活体験を資料で読み解き、最後に実際に就職内定者をビジターに迎え、インタビューする。

第6～11回：敵を知る（採用側の考えや立場を知る＋筆記試験体験）

採用者側の事情や立場を理解することで、より適切な就職活動に結びつける。問い合わせのマナーや社会人基礎力など基本的な態度を学び、実際に人事担当者を招いてインタビューする。SPI、CAB、一般常識の一部を体験し、目標までの距離感をつかむ。

第12～13回：己を知る

これまでの活動を通して気づいた自分の現在の能力と就職に必要な能力の差を分析し、その改善と日本語能力向上の具体的な実行プランを立てる。

第14回：いざ、出陣

最後に自分自身の活動プランを日本語で作成し、発表する。就活プランを共有することで、仲間と一緒に就職に向かって行動する準備ができる。

4. 口頭発表（プレゼンテーション）

第14回：「就活計画発表～これが私の就活アクションプランだ！」

コース修了時の最終発表として評価の対象にする。

5. 課題シート提出

第3回：課題シート1「要点書き込みシート」（4項目16点）

第4回：課題シート2「要点書き込みシート」（5項目20点）

第8回：課題シート3「エントリーシート」（5項目20点）

第13回：課題シート4「就活計画表」（5項目20点）

第14回：課題シート5「アクションプラン相互評価シート」（5項目20点）

各シートは授業時間内に完成させ、評価の対象にする。

6. 授業振り返りシート

コース全般にわたり、自己評価を毎回行う。項目は、目的、目標、ピア活動、ルールについての4点。

7. 評価方法

5回分の課題シートと授業中の活動・プレゼンテーションによって、以下の項目を評価する。

評価点は、A～Eとし、それぞれA（90%以上）、B（80%以上90%未満）、C（70%以上80%未満）、D（60%以上70%未満）、E（60%未満）に相当する。

①日本語能力

課題シート・授業中の活動・最終口頭発表によって評価を行う。評価は、成果物（課題シート1～5）、及び授業中の学生の様子を観察した教師の判断とする。

②課題達成能力

課題シート1～5、及び最終発表のそれぞれの点数を%に換算し、A～Eまでの評価を行う。

③ピアサポート能力

第1～15回の授業中の活動におけるピアサポートを観察し、学生の振り返りノート
の自己評価を含む総合評価をA～Eまでの評価で行う。

④総合評価

以上の能力を総合的に判断しA～Eまでの評価を行う。

⑤言語スキルの評価

総合評価について下図の表を使い、それぞれの言語スキルについても評価します。

	評価項目	課題	授業実施時期	評価
情報収集能力 読解能力	スキミング	数字図表等の資料を読む	第3回、第10回	
	スキミング	就職体験談を読む	第4回	
	精読	筆記試験解題	第10回、第11回	
文章作成能力	表現力	エントリーシート 就活計画表 要点書き込みシート プレゼンテーション	第3回、第4回、第8回、 第13回、第14回	
	構成力	プレゼンテーション エントリーシート	第8回、第13回	
	正確さ	エントリーシート 就活計画表 要点書き込みシート プレゼンテーション	第3回、第4回、第8回、 第13回、第14回	
口頭表現能力	待遇表現	ビジターセッション ディスカッション	第1回～第14回	
	構成力	プレゼンテーション	第14回	
	表現力	プレゼンテーション ビジターセッション	第5回、第9回、第14回	
	発音アクセント	プレゼンテーション ビジターセッション	第1回～第14回	

評価は、前述の口頭発表（プレゼンテーション）、成果物、授業中の言動を
参考に行います。

8. 活動時間について

授業における活動時間は、1クラス15人を想定して考えた活動時間の目安です。ク
ラス人数によって調整してください。また学生の日本語能力によっても各活動時間は
柔軟に変更し、実施してください。

Part 1 オリエンテーション

第1回 オリエンテーション（1）

就職戦線に勝つ！

～就職活動とはどんなものか～

- 目的：本コースの概要、到達目標の理解、ピア関係構築を図る
- 目標：就職活動全体の流れとコース概要を知る。後半は、ピアサポート関係構築のためのワークを通して、就活とピアを関連づけて理解する

●準備するもの：

ストップウォッチ／リソース集

●授業の組立て

1. 孫子の兵法
動機付け活動
2. 就活クイズ（初期診断テスト）
各自の就職へ向けた現状を知る。
3. コース概要について
コースの概要、目的ゴールを理解する

●授業の進め方

1. 孫子の兵法

15分



動機付けの活動として、孫子の兵法書の一節を紹介し（活動冊子 p.5 参照）。何度か音読して、せめて冒頭の一文でも暗記したいところです。原文から引いたので、一般に流布している読み下し文とは違っています。これは各現場の判断で、「敵を知り己を知れば百戦危うからず」に差し替えてもいいでしょう。

次に、学生がこの言葉を就職活動に落とし込むために、クラスで話し合います。モチベーションづけが狙いですので、沈滞していたら適度に刺激してください。就職活動は<戦い>であるが、それにきちんと戦略をもって臨めば成功するし、準備を怠ればそれなりの結果しか得られない、というところに皆が納得したら成功

です。



2. 就活クイズ（初期診断テスト）

20分

戦闘態勢に臨めたところで、自分たちの現状をまず知るためにクイズを行います。これは初期診断となります。11回目の始めにほぼ同じ内容のクイズを行い、達成度を測ります。手順は冊子の通りです。ここで正解は伝えません。

クイズの答え：上から ××××○○××○××○

3. コース概要について

20分



コースの中にクイズに出した内容が埋め込まれていることを伝え、ざっと組み立てを活動冊子 pp. 5-6 までの内容を見ながら紹介します。次に学生たち自身がコースの目的とゴールへの理解をシェアします。

就職成功作戦開始（ピアサポート関係構築ワーク）

●授業の目的：ピア関係を作る～上手な仲間・ネットワーク作りのために

就職活動の経験者、内定者の体験談に必ずと言っていいほど登場するキーワードの一つが「仲間の励まし」です。アジア人財資金構想の第一ゴールは就職活動の成功というところにあります。それを実現させるには、個人の知識や能力だけでなく、1～2年間のモチベーション維持が重要なテーマとなります。そこで、ここでは**ピア・サポート（仲間同士の支え合い）**関係の構築を図る活動を行い、最終的にはクラス全員の就職の実現に向けて、クラスの風土作りを目指します。

●授業の組み立て：

1. 動機付け（仲間の必要性に気づく）（1. 体験談、2. 自己の経験の掘り起こし）
2. 具体的な活動イメージをつける（5つのケースを通して仲間のあり方を知る）
3. コミットメントという形で、クラスで目標を一文にまとめ、クラス全員が仲間であるという感覚を共有し、以後の活動の出発点となるようにする。

●準備するもの

特になし

●授業の進め方

1. 記事を読む：動機付け、刺激

15分



資料1（リソース集 p.3）を読んで何がポイントかを話し合います。

2. 就職戦線において何が必要かを考えてみます。

20分



第2回 オリエンテーション（2）

就活スタート！

～就活キーワードで、就職までの流れをつかむ～

●目的：「就活」とは何かをキーワードと共に理解する

就職活動をするにあたり、学生はまず就活関連の用語の意味と内容を理解する必要があります。実際の行動開始に先がけて、これらが早い時期からできていれば、情報の収集に役立つだけでなく、学生自らが就活を自分のものとして能動的に計画し実施する手助けになります。

●目標：就活キーワードを理解し、仲間同士で就活について話し合える

- ・就活の流れをイメージできる
- ・就活キーワードを理解する
- ・就活計画を立てる時のポイントがわかる

●準備するもの

特になし（PC使用が可能であれば、準備し、ネット検索に用いる）

●授業の組立て

1. 就活の流れを理解する

就職活動に関係する用語および就活のおおまかな流れを理解し、説明し合う

2. 応募に関するキーワードを理解する

企業に応募する際に必要な用語を理解し、説明し合う

3. 就活キーワードの確認

「就活計画」について語った文章中の（ ）に就活キーワードを入れる穴埋めクイズに解答する作業で、理解を試す

4. 「就活計画」の問題点を考える

他者の「就活計画」を客観的に読み解くことにより、問題点を探り、共有し、就職活動を計画的に行う足がかりとする

●授業の進め方

1. 就活の流れとキーワードを理解する

25分



表の流れを見て、太字のキーワードについて確かめよう。

活動1) グループでキーワードを調べ確認し、他者にわかるように説明し合う。グループ内で解決できない場合は他グループに質問し、情報を獲得する。

活動1に入る前に、「～というのは～の／ということです。例えば、～がその一例です」のように簡潔な説明の仕方をモデルとして提示します。言語スタイル(普通体・丁寧体・敬語)を活動に応じてスムーズに変えられるような働きかけをコース初期から適宜行うことで、学生の言語運用への意識を高めます。例えば、語彙を調べている時には仲間同士でカジュアルに話していても、説明し合う時には「～はどういうことですか?」「～は～のことです」と丁寧体で説明するというようにです。活動1を終了後、「OG およびOB」「内定」などの学生が分かりにくい用語については全体で確認し、補足説明をします。学生は具体例を考えることで、キーワードを自分たちのものとして捉えることができます。

2. 応募に関するキーワードを理解する

20分



意味と具体的な内容を確認しよう。

活動2) グループでキーワードを調べ、確認し、他者にわかるように説明する。グループ内で解決できない場合は他グループに質問し、情報を獲得する。

活動1と同様に行います。活動2を終了後、「エントリーシート」「インターンシップ」「志望動機」「適性検査」「自己PR」「Web エントリー」など用語について、全体で確認し、簡単に補足説明をします。

3. クイズに答えて、理解度をチェックする

20分



「就活計画」についての文章の()に適切なキーワードを書き込もう。

活動3) 就活キーワードを「就活計画」について話している文章中の()に入れる穴埋めクイズに解答する。

クイズ終了後、学生に穴埋めをした文章を音読させ(一人一文)、正解を提示します。

1 就職ガイダンス	2 情報	3 OB (OG)	4 説明会 (セミナー)	5 セミナー/ (説明会)	6 インターンシップ	7 エントリーシート	8 面接	9 内定
-----------	------	-----------	--------------	------------------	------------	------------	------	------

4. 「就活計画」の問題点を考える

25分



この留学生の問題点を話し合おう。

活動4) グループで、留学生の「就活計画」の内容や意識についての問題点を考える。

活動開始前に、着眼点(行動のタイミングはどうか/就活に対する考え方はどうか/自分自身に対する考え方はどうか)を確認します。問題点として、就活の開始時期が遅い/就活仲間との連携が取れていない/就活の楽観視/自己の能力の過信/自己のコミュニケーション能力の低さの軽視/企業に対する偏見などが挙げれば良いと思います。学生から出なかったものに関しては、教師が提示します。内定獲得が就活のゴールであることを大前提にし、そのためには問題を自分の就活に持ち込まないという意識を学生が持てれば、今回の授業のゴールに到達です。最後の活動部分(今回は活動4)には、振り返りの時間も含めてあります。

振り返りの時間を毎回5分程度見て活動を終了し、振り返りを行います。

Part 2 戦況を知る

第3回 戦況を知る（1）
情報を収集する
～留学生の最近の就職状況を探る～

●目的：留学生の就職状況を探り、就活計画の準備をする

この授業では、日本での外国人留学生の就職状況を、資料：法務省入国管理局「平成21年における留学生等の日本企業等への就職について」（平成22年7月）から読み取り、各自の日本での就職の可能性を探り、そのための就活準備計画を立てる意識づけをします。

●目標：最近の留学生の日本での就職の状況を知る

- ・入国管理局の資料から、最近の留学生の就職の傾向を把握する。
- ・表やグラフを見ながら必要な情報を収集することができる。
- ・留学生の就職状況をより現実的、具体的に考えられるようになる。

●準備するもの

ストップウォッチ／要点書き込みシートコピー

●授業の組立て

1. 身の回りの日本での就職体験者を挙げて、具体的事例として理解する。
2. 資料を読み、具体的な数値をもとに留学生の就職事情を把握する。
3. 資料を読み取った結果をグループで話し合い、理解を深める。
4. グループ単位で話し合いの結果を発表し、全体で情報の共有をする。

●授業の進め方

1. 身の回りの就職体験者を探そう。



活動1) 日本での外国人の就職事例について身の回りを探し、グループで紹介する。

ここでは、まず個人作業として自分の周囲（家族、友人、先輩など）に日本で就職している人がいるかを思い出し、どのような仕事に就いているかを活動冊子 p.9 の記入欄に記入をします。（10分）

次にグループ（3～5人程度）を作り、その場でお互いの事例を紹介しあいます。聞く側の学生は要点書き込みシートにその内容を記録します。そうすることで、外国人の日本での就職について具体的なイメージを持ち、自分もそうなるのだという気持ちを起こさせます。もし身の回りにそのような人物がいなくても、グループの他の学生の話聞くことで、自分に身近なこととして就職をイメージするように指示します。また、日本で働いている人間を知っているかどうかは重要なのではなく、日本で就職するというイメージを具体的に持つことが大切だという点を伝えます。
(20分)

2. 留学生の就職に関する資料を読んでポイントをまとめよう。 60分



活動2) 資料を読解し、留学生の就職状況を要点記入シートに記入する。

就職の可能性、査証取得可能な業種、就職先企業の傾向、職種、給与などの数値データから、自分たちが就職する時の状況をより具体的、現実的にイメージ化します。最初に、語彙や表現についての質問は随時受け、解説します。学生の日本語レベルによっては、講師があらかじめ注目すべき点をしぼって、読解タスクシートを作成し、シートに沿って読み進めるよう学生に指示しても良いでしょう。また必要であれば、語彙を読み始める前に全員で確認してから始めるのも一案です。一見難しく見える文章ですが、資料後半の図表を参考にすれば、それほど難しくはないということを学生に伝え、読み進むようにします。この作業は個人作業です。(30分)

読み終わったら、活動1のグループ毎にまとめ作業を行います。全体の採用人数、職種、会社の傾向、待遇などの点についてグループでの結論をまとめます。

(20分)

最後にグループごとの結果や感想を発表し、全体で共有します。

(10分)

第4回 戦況を知る（2）

先輩達はどのように就活を勝ち抜いたか ～就活体験記から留学生の就職活動を考える～

●目的：留学生の体験談から就職活動の実際を知り、自分の就活計画に役立てる

『留学生活動事例集』（経済産業省・アジア人財資金構想プロジェクトサポートセンター：リソース集 p.5 参照）に掲載された留学生体験記を読解し、留学生の就活の実際と傾向に触れ、情報を整理します。さらに、現時点での自分自身の就活計画を立ててみることで、企業への就職が実現可能な目的であることを意識づけます。

●目標：先輩の体験を知ることによって就活とは何かを知り、自己の計画を具体化する

- ・就活に関する留学生の文章をグループで読み、全員が理解できる
- ・就活を自分自身のものとして捉え、現時点での就活プランが立てられる

●準備するもの

要点書き込みシートコピー（学生提出用）／ストップウォッチ

●授業の組立て

1. 先輩の就活体験記を読む
2. 読んだ内容を共有する
就活の実際に関する情報を収集し、共有する
3. 留学生の体験記の中の印象に残ったことを話し合う
仲間と話し合い、自分の考えを伝え、他者の視点に触れる
4. 自分の就活計画を立てる
体験記を参考にし、時系列で大まかな就活の流れを計画する
5. 「全員就職」に向けての就活計画を共有する

●授業の進め方

1. 先輩の就活体験記を読む

25分



留学生の体験記を読んで、ポイントをまとめよう。

活動1) グループ毎に留学生の体験記を読解し、要点書き込みシートに記入する。

要点書き込みシートは学生の人数分コピーをし、それに記入します。活動5の終了後に回収して、評価します。要点書き込みシートの記入欄が小さいので、要点のみを書き込むように指示します。例えば1-1なら、日本語／企業の管理を知る／日中の旅行業に役立つといった程度です。学生が記入しやすいようにA4サイズのコピーを使用しても良いでしょう。活動1には授業のイントロの時間も含まれていますので、実際の活動は20分程度で行います。

2. 読んだ内容を共有する

25分



それぞれの留学生の見習いたい点をポイントにレポートしよう。

活動2) グループの代表が一人ずつ、読んだ内容の要点を発表する。他のグループの学生は、聞きながら要点書き込みシートに要点を書き込む。

グループの発表者は、記入したシートを見ながら「日本企業就職の動機は～です」の形で1～7の項目について簡潔に報告し、他の学生は活動2の要領で書き込みます。報告は各々5分程度で行います。就活用語を何度も言ったり聞いたりすることで、語彙が定着しやすくなります。

3. 留学生の体験記の中の印象に残ったことを話し合う

15分



留学生が日本の企業に就職するためには、就活をどのように進めたら良いのだろうか。

活動3) グループで、読んだ体験記の印象について話し合う。

活動前の声かけとして、留学生の多くが「行っていたことは何か」「困難を感じたことは何か」「就職の決め手として挙げていたことは何か」などを学生に伝えます。それらを考えることで、就活で「絶対したほうがいいこと」「できればしたほうがいいこと」「絶対にしてはいけないこと」が、学生自身の留意点として明確になってきます。また、グループで仲間と意見を交換することで、就活を別の視点から捉えることができます。

4. 自分の就活計画を立てる

15分



今から就職までの期間に、「いつ何をしよう」と思うか、時系列で考えよう。

活動4) 矢印に沿って、自分自身の就活の時期と活動内容を書き込む

就活行動の時期と活動内容を参考にすることを指示します。また、留学生の体験記は「成功者のコメント」という点で、参考にする意味があることを伝えます。就活時の困難点が予想できれば、対策も立てやすくなります。

5. 「全員就職」に向けての就活計画を共有する

10分



問題点だと思える点があれば、アドバイスをし合おう。

活動5) 仲間の就活計画を見て、疑問点の提示やアドバイスをし合う。

自分も仲間も就活を成功させるというピアサポートの概念を忘れずにやり取りが行えているか観察します。活動の時期や内容は、学生の目的により差異が現れます。アドバイスをし合う際は相手の状況を考慮することが大切であり、そのことができた上での信頼感が持てるやり取りが行えるよう、適宜学生に声かけをします。

第5回 戦況を知る（3）

就職内定者から生の情報を得る

～日本の企業で働くということを考えてみる～

●目的：内定者から直接話を聞いて生情報を手に入れる

留学生の就活体験記も読み、少しずつ就活の実際が掴めてきたところで、大学内の就職内定者にインタビューします。実際に口頭でやり取りすることにより、学生は聞きたいことが聞け、疑問をただすことができます。

●目標：自分が聞きたいことを整理して、生の情報を獲得する

- ・自分にとって必要な情報が聞き出せる
- ・TPOに応じた適切な表現でやり取りができる

●準備するもの

学内の就職内定者数人へアポイントを取ること／ビデオカメラ

●授業の組立て

1. 日本の企業で働く理由を考えてみる
自分はなぜ日本の企業に就職したいのか、理由を考えてみる
2. 先輩にする質問を準備する
与えられる情報ではなく自分たちが知りたい情報を質問の形にする
3. 先輩にインタビューする
先輩に対する適切な表現を使ってインタビューする
4. インタビューして感じたことを話し合う
インタビューの感想を話し合って共有する

●授業の進め方

1. 日本の企業で働く理由を考えてみる

15分



自分にとって大切なことを考えてみよう。

活動1) 日本企業で働く理由の中から、自分にとって大切なものを3つ挙げる。

活動1では、10個挙げた項目の中から学生は大切だと思うもの3つを挙げ、就職における自己実現の内容を具体的に意識化する機会にします。自分が日本の企業で働きたい理由に優先順位をつけることで、漠然としていた動機が現実かつ自分自身のものとして考えられるきっかけとなります。

2. 先輩にする質問を準備する

15分



聞きたいことを敬語で書いてみよう／代表者は挨拶をしよう。

活動2) 自分が聞きたいことを質問の形にする。また、グループで敬語表現をチェックする。

聞きたいことを実際の質問の形にして、次の活動（「先輩にインタビューする」）に繋がります。就活の第一歩として敬語での質問を考えます。グループ活動中にグループ間を回り、学生の質問に答えたり誤用の訂正を行ったりします。グループから代表者を募り挨拶を練習しておく、内定者への感謝の意も表せます。

3. 先輩にインタビューする

45分



就活成功者から得られる生の情報は貴重！積極的に聞こう。

活動3) 就職内定者にインタビューする。

依頼できる学内の就職内定者の数や学生の状況に合わせてインタビューの形式を考えます。（1人→内定者対学生全員／2～3人→内定者対全員 OR 内定者対グループ etc）インタビューのマナーとして、最初の質問は学生の学部と名前を言ってからするということを伝えます。インタビュー活動を学生に任せ、自主的な進行を心掛けるようにすると達成感が高まるでしょう。その際は、司会も学生に任せます。インタビューから得た大切な情報はしっかりメモし、「就活覚え書きノート」を個々に作成し活用するように勧めます。インタビューの様子はビデオで記録し、評価の参考にします。

4. インタビューして感じたことを話し合う

15分



それぞれが感じたことや考えたことを発表し、共有しよう。

活動4) インタビュー後の感想を発表し、共有する。

まとめの活動として、全体でインタビューした感想を発表し共有を図ります。ポイントとして、聞きたいことが聞けたか／先輩の話で印象に残った点はどこか／先輩の話を自分のこれからの就活にどう活かしたいと思うか／日本の企業で働くことが現実のものとして感じられたかなどを挙げます。前回の留学生の体験記、今回の就職内定者へのインタビューから、就活計画が確実に一步前に進みます。

Part 3 敵を知る

第6回 敵を知る（1）

企業とコンタクトをとる

～就活の成功は、基本中の基本を知ることから～

●目的：「就活」に必要なコンタクトの方法とマナーを知る

就活の流れや就活キーワードの理解が進み、学生がいざ行動を起こすときに必要となるのが、企業にコンタクトをとる方法やマナーです。就活を効率的に進めるためには、コンタクトのポイントを知るとともに日本社会特有のマナーを理解し実践することが留学生にとっての基本的な課題となります。と同時に、Web などの企業の採用情報から必要な情報を的確につかむ必要があります。

●目標：基本的な問い合わせの方法や採用情報に関する語彙を知り、実践につなげる

- ・資料請求・Web エントリー・セミナー・会社説明会の申込方法が分かる
- ・コンタクトに関するメールやはがきのマナーがわかる

●準備するもの

就職情報誌（リクルートブックなど）／PC（Web 検食用）

●授業の組立て

1. 就活の準備を考える

Web エントリーやセミナー、会社説明会の申込みなどのコンタクトの方法を知る

2. 電話やハガキ、メールのマナーを知る

クイズで考える→教師から正解を与え、解説をする

3. コンタクトの流れをつかむ

文書（メール）と口頭（電話）での表現と注意点を考える

●授業の進め方

1. 就活の準備を考える 企業へのコンタクトの方法を知ろう。

30分



活動1) Web エントリーやセミナー、説明会の申込みの手順について教師が説明する。
また、採用情報に関して必要な語彙の確認をする。

既に就活用語としての理解はできているはずですが、採用における待遇や条件に関する語彙には見慣れないものがあるかもしれません。学生に意味を質問し、確認してから流れに沿って説明すると、理解が確実になります。教師からの一方的な説明にせず、学生からも知識を提示してもらうなど、インターアクションのある活動展開を心がけます。

2. 電話やハガキ、メールのマナーを知る 自分たちのマナー度を チェックしよう。

30分



活動2) グループで相談し、クイズに解答する。「正しい」「正しくない」の理由についても話し合う。教師は正解を提示し解説する。(クラス全体)

ここでは、どの国にも共通する事務処理の常識と日本社会特有のマナーに関するもの二種類を提示しています。クラス全体での活動では、まず学生から解答を出させ理由も尋ねます。教師も正解提示と共に、「なぜ日本人はそうするのか」という理由も併せて説明し、異文化理解の機会とします。

正解1 (○) 企業に電話する際には、始業直後や昼休み、終業間際の時間帯を避けるのが望ましい。

- 2 (○) 問い合わせは企業側から見れば分類の情報源。詳しくが必要。
- 3 (○) 一言書くことで、礼儀正しさと丁寧さがアピールできる。
- 4 (×) 催促は良くない。しばらく待っても届かなかつたら、はがきを再度書いて送り直す。←企業に対して失礼があってはならない
- 5 (○) メールの方が企業が返信しやすい。やり取りが続きやすい。

3. コンタクトの流れをつかむ

30分



文書(メール)と口頭(電話)での表現と注意点を考えよう。

活動3) 文書と口頭での企業とのやり取りの流れを、語彙とともに確認する。

ここでは、相手に好印象を与えるようなやり取りを、文書と口頭ではどのように行えば良いかを、流れとともにクラス全体で考えていきます。

文書の場合はビジネスメールの基本ルールを踏まえて書く必要があること、電話でやり取りする場合には、電話口に出る相手が変わるたびに自分の氏名、大学名などを何度でも名乗るといような、留学生が気づきにくいマナーを教師から伝えます。クイズ形式にして学生に最初に考えさせてから、説明しても良いでしょう。また、メールの書式や電話での決まった表現の形式なども紹介します。留学生の応募については、可能かどうかを必ず自ら確認することが必要なことも伝えます。

第7回 敵を知る（2）

企業が求める人材像

～社会人基礎力～

●目的：社会人基礎力の意味を調べ、理解する

就職に関する最近の傾向として「社会人基礎力」の必要性が言われています。これは、社会で活躍していくために必要とされる能力の一つとされています。その他の「基礎学力」、「専門知識」、そしてこれらの能力の基盤となる「人間性、基本的な生活習慣」からなるものです。企業が留学生に対して日本語も含め日本人と同様の能力を求めていることから、留学生もこの能力について知っておかなければなりません。

●目標：新入社員に求められる能力を探る

新入社員が求められる個々の能力を具体的に分析し、自分が既に身に付けているものとそうでないものを分類し、自己の就職活動の中で絶えず意識していく姿勢を準備します。

●準備するもの

ストップウォッチ（グループワーク等の活動時間の管理）

●授業の組立て

1. 資料を読み、活動冊子中の記入欄を埋める
2. 社会人基礎力の具体的な内容の表を見ながら、それぞれの項目について想定できる行動様式を考える。
3. 上記活動で挙げられた行動を、これまでに経験したことがあるかどうかなどを話し合う。

1. 資料を読んで、ポイントをつかもう。

30分



活動1) 資料4「社会人基礎力に関する研究会『中間取りまとめ』」（リソース集 pp. 8-9）を読んでポイントをつかむ。

資料「社会人基礎力に関する研究会『中間取りまとめ』」の一部を読ませ、活動冊子の記入欄に適切な言葉を記入します。文章は多少難解な語彙が含まれていますが、

読む前に語彙の説明を行ってから、読解作業に入ります。レベルによっては、初見で読むようにします。

- 解答** a) 「職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行なっていく上で必要な基礎的な力」
 b) 「基礎学力」「専門知識」
 c) 「人間性、基本的な生活習慣」

2. 社会人基礎力について考えをまとめよう。

40分



活動2) 「社会人基礎力の具体的な内容」を考える。

「社会人基礎力の内容」の表を見ながら、一つ一つの項目について具体的な行動はどのようなものかを全員で考えます。これらの項目の中には、日本的な考え方に立脚したものもあり、場合によっては「なぜそのような能力が求められるのか」とか「なぜそのような振る舞いが必要なのか」改めて解説する必要があります。解説が必要な学生が多く参加している場合は、全体活動として教師の解説を中心に授業を進めます。もし在日期间がある程度あり、日本の文化や日本人の習慣にある程度慣れ親しんでいる学生が多ければ、学生をグループに分けて、グループ単位で表の内容について話し合い、その結果を発表する活動が良いでしょう。

3. 自分の経験から社会人基礎力を考えてみよう。

20分



活動3) 自分にあるものとないものを考えてみる。

活動2の結果を全員で確認した後、学生各自が体験を振り返り、うまく行った例、うまくできずに困った例などをグループで話し合います。もし活発に意見が出て来ないグループがある場合は、教師が学生のこれまでの経験の中から、

- ・ 学校でのサークル活動で
- ・ アルバイト先で
- ・ 友人関係において
- ・ 自分の生活において

などの状況を提示して、そこで社会人基礎力にある能力を発揮できたかどうかを考えるよう促します。

第8回 敵を知る（3）

求められる人材像とは

～自分が会社の人事担当者だったら、どのような人材がほしいだろうか～

●目的：「求められる人材像」について、企業の立場で考える

企業の立場で考えてみることで、「求められる人材像」について客観的に捉える視点を養います。さらにグループで話し合う活動で、他者の視点に触れ、自己の認識を修正できる機会にします。最後に就活を行う学生自身の視点に立ち戻り、企業への自己PRを考えます。企業と自己の立場の双方の視点に立つことにより、「求められる人材像」に共通するものが何かを探り、就活および就職の手がかりにします。

●目標：エントリーシートのポイントがわかる

- ・性格や行動に関係する語彙や表現を使って話し合える
- ・エントリーシートの書き方のポイントがわかる

●準備するもの

エントリーシート（学生用）のコピー／ストップウォッチ

●授業の組立て

1. 企業の立場で「求められる人材像」を考える
人事担当者としての視点で考えてみる
2. 仲間と考える
他者と意見を交換し、話し合うことで共通点や相違点に気づく
3. エントリーシートを読む
エントリーシートの記入例を読み、人材を評価する
4. エントリーシートに記入する
エントリーシートに企業への自己PRを意識した記入をする
5. 「求められる人材像」とは何か…気づきを共有する
この日の活動で得た気づきを発表し共有する

●授業の進め方

1. 企業の立場で「求められる人材像」を考える

20分



人事担当者として、大切だと思うものを5つあげ、その理由をメモしよう。

活動 1) 自分が人事担当者だったらという仮定のもと、企業側が採用希望者に求める大切なもの5つを個々で考え、その理由も明確にする。

自分自身の立場ではなく、企業側の立場で考えることを学生に意識させてください。前回学んだ「社会人基礎力」の項目も参考になるはずです。なぜ、それらを求めるのかという理由も必ず考えて記入するように指示します。

2. 仲間と考える

20分



それぞれが考えた「求められる人材像」を出し合い、共通点と相違点を探そうなぜそれが大切だと思ったか、理由も話し合おう。

活動 2) それぞれが挙げた5つをグループ内で発表し合い、共有する。共通するキーワードを書き取り、それが大切だと思う理由も話し合う。

企業の立場から見て、なぜそれを挙げるのかという理由が話し合えているかを観察します。項目挙げだけになっているグループには介入が必要です。学歴や経歴、日本語能力、前回学習した「社会人基礎力」の中の項目など、学生によって挙げるものにばらつきが出ることが考えられますが、人事担当者としての立場で考え共通する部分にフォーカスするよう促します。キーワードとして残ったものを全体で共有することによって、企業側が求める人材像の一部が浮かび上がってきます。

3. エントリーシートを読む

20分



エントリーシート（活動冊子 p.23）を読み、応募者のどのようなことが推測できるか考えよう また、この応募者を面接したいかどうかについて意見を出し合おう。

活動 3) エントリーシートから応募者の印象、評価できる点、問題だと思われる点を出し合い、自分が担当者だったら面接したいかどうか意見を出し合う。

グループで出た意見を一部発表させ、全体での意見の共有を図ります。エントリーシートには、社会人基礎力、自己PR、日本語能力のそれぞれの観点で不適切だと思えるような記述があります。

例) 社会人基礎力

→ 「ひと言で」の指示が読み取れず、長々と記述している（課題発見力の欠如）

→ 「監督に言われ仕方なくマネージャーになった」（主体性の欠如）

自己PR

→ 「面倒なことは全部私がやった」（自分の行動の自己評価が高過ぎる／自慢）

→ 「積極的だし、我慢強いし、責任感がある」（長所の羅列／短所はない？）

日本語能力

→ 「サーポト」（カタカナ表記のミス）

→ 「監督の仕事も手伝って差しあげた」（敬語の運用ミス）

以上の点が学生から出てこない場合は、教師が「こう受け取られる可能性がある」という形で提示します。その上で、この応募者を「面接したい」というグループがあれば、理由を聞き受容します。「求められる人材像」は、業種や職種、企業のカラーによって差異がありますが、ここでは「企業で働く」ことを考えた時の基本になるものを想定しています。

4. エントリーシート(活動冊子 p. 24)に記入する

15分



自分だったらどのようにエントリーシートに記入するか考えよう。

活動4) エントリーシートに応募者として記入する。

活動3でのエントリーシートに記入する際のチェックポイントを全体で確認してから記入します。エントリーシートを提出させ、チェックポイントに留意できているかを評価します。

5. 「求められる人材像」とは何か…気づきを共有する

15分



企業側と自分自身の立場で考えて、気がついたことを1分で発表しよう。

活動5) 授業を通して感じた「求められる人材像」への考えを各自発表する。

活動から得た「気づき」を一人1分で発表します。「私も同じです」というような発表にならないように、自分の言葉で話すよう促します。

第9回 敵を知る（4）
企業の人事担当者聞く
～企業が留学生に求めるもの～

●**目的：企業の人事担当者的話から、企業が留学生に求めるものを探る**

就活関係の資料や就職内定者の話などから就活についてのある程度の把握ができたところで、実際に企業の人事担当者的話を聞き、企業が留学生に何を求めているかを探ります。就職の実際を知ることで就活計画が立てやすくなります。

●**目標：企業の人事担当者的話を理解し、確認や質問ができる**

- ・人事担当者的話がメモを取りながら聞ける
- ・適切な敬語表現を使い、確認や質問ができる
- ・聞くマナーが守れる

●**準備するもの**

特になし

●**授業の組立て**

1. 話を聞く準備をする
話を聞く時や質問をする時のマナーと表現を確認する
2. 質問を考える
聞きたいことを質問としてリストアップする
3. 企業の人事担当者的話を聞く
キーワードや大切な数字など必要な情報をメモしながら聞く
4. 質疑応答をする
適切なマナーや敬語表現を使い、確認や質問をする

●**授業の進め方**

1. 話を聞く準備をする
話を聞いたり質問したりするときのマナーと表現を確認しよう。

20分



活動1) 話を聞く態度や質問のマナーと表現を確認する。

「話を聞く態度」は、特に日本のマナーとして学生がしっかり認識する必要があります。「質問のマナーと表現」は、研修会や発表会など大勢の中で質問をするときのマナー（まず自分の氏名と所属とお礼を言う）と敬語表現を指導します。何回か口頭練習をして、質疑応答の時間に備えます。活動冊子 p. 16 で行ったように、学生の代表を決め、始めと終わりの挨拶をさせるようにすると、企業の担当者と学生の距離が狭まります。

2. 質問を考える

15分



質問したいことをリストアップしよう。

活動2) グループで話し合い、質問したいことをリストアップする。

質問をリストアップする際に、質問するときの敬語表現も考えるよう指示をします。「必ず一人一回は質問すること」というような課題を設定しても良いでしょう。企業の人間から生の情報を得られる貴重な機会であることを伝え、例を参考に自分にも仲間にも必要な質問が出せるよう話し合います。

[例] 留学生に期待すること、エントリーシートのポイント、留学生を採用して良かった点

3. 企業の人事担当者の話を聞く

40分



要点のメモをとりながら聞こう。

活動3) 企業の人事担当者の話を聞きながら、要点をメモする。

企業の人事担当者には事前にこのコースの概要や学生の状況を伝え、留学生の採用状況にポイントを絞った話をしてもらえるよう事前に依頼します。キーワードとして「留学生の採用条件」、「日本人応募者との比較」、「企業が求める人材像」などを伝えておくと、企業の人事担当者も話しやすいでしょう。留学生を多く採用している企業に依頼できれば、データも豊富で話の内容もさらに現実的で身近なものになります。時間は40分を目安にしていますが、状況に応じて時間の短縮や延長を行います。

4. 質疑応答をする

15分



企業の人事担当者に確認や質問をしよう。

活動4) 話を聞いた後で確認や質問をする。

活動4では、話を聞いた後の確認や質問が適切に行えるかを観察します。進行役を学生に任せれば活動の自主性も高まりますが、その際は予め担当の学生を決め、教師と打ち合わせをしておきます。

第10回 敵を知る（5）

筆記試験体験

～SPI・CAB って？～

●目的：試験の項目内容を知り、必要な能力技能を知る

この授業では就職試験の中の筆記試験について考えます。問題形式、所要時間等、筆記試験の概要を把握します。

●目標：筆記試験の目的、内容を理解する

筆記試験で企業は何を測ろうとしているのか、試験問題の実際はどのようなものかを問題サンプルで実感します。

●準備するもの

ストップウォッチ（グループワークなどの活動時間の管理）

●授業の組立て

1. 就職活動における大まかな流れを確認する。
2. 筆記試験の種類とそれぞれの内容など試験概要を知る。
3. 筆記試験から企業は就職希望者のどのような能力を調べようとしているのか、その目的について考える。
4. 筆記試験対策としてどのようなことをすれば良いかを考える。
5. 筆記試験模擬問題（リソース集 pp.10-12）を実際に解答し、試験の感触をつかむ。
6. 実際に解答した後に、その感想を話し合う。

1. 就活の流れを思い出そう。

5分



活動 1) ウォーミングアップ的に就活の流れを思い出させ、多くの場合は筆記試験をパスしなければ面接に進めないということを再認識させる。

2. 試験の概要を知ろう。

15分



活動 2) 筆記試験の概要を表で確認。

本来、筆記試験には、能力適性検査（SPI2、GAB、CAB など）の他に独自の一般常識

試験もあります。この授業では能力適性検査を紹介し、一般常識試験は次の授業で扱います。この活動では、SPI2、GAB、CAB の概要を見ます。そして学生達の希望する業種や職種では、どの試験が行われる可能性が高いかを紹介します。試験の詳細や傾向については様々な対策本が出版されています。その中から、適当なものを選んで参考にすると良いでしょう。

3. 企業は筆記試験で何を調べようとしているのかを知ろう。

10分



活動3) 企業が測りたい能力を紹介する。

適性検査の実施により、企業は就職希望者のどのような能力を測ろうとしているかを紹介します。ただしここでは、あくまでも紹介に留めます。「この問題はどの能力を測るためのものか」を一つ一つ分析するよりも、とにかく問題に触れるようにします。

4. 試験問題を体験しよう。

40分



活動4) 問題サンプルを体験する。

用意した問題サンプルを実際に解答させます。学生の希望業種や職種によって問題を選び、解答させても良いでしょう。学生のレベルによっては模擬テストのようなものを通してさせることも出来ますが、活動2の中で試験の概要を説明する時に、対応する問題を一問ずつ皆で考えながら進め、残りは参考資料として配布し、自宅学習としても良いでしょう。また、文章理解の問題文など未習の漢字語彙などがある場合は事前に読みを与え、作業時間の短縮を図るのも良いでしょう。

5. 試験体験の感想を話し合おう。

10分



活動5) 試験問題の難易、内容などについて感想を話し合う。

問題を解答し、難しかった点とその理由などをグループで話し合い、その内容を発表する時間を取ります。

6. 試験対策について考えよう。

10分



活動6) 試験に向けて何を準備するかを紹介する。

筆記試験のスコアをあげるためには、何度も問題を解いて制限時間や問題の内容に

慣れる必要があります。ここではごく一般的なものを活動冊子に紹介していますが、それ以外に各教育機関での独自の対策指導法や資料などがあれば、ここで紹介します。紹介の時間を節約するためには、プリント配布しても良いでしょう。

参考文献

『筆記試験の完全攻略2012年度版』（内定ロボット著、日経就職ナビ編集部編、日経IR）

注）上記の問題集以外にも、適当なものを選んで使用してください。

第11回 敵を知る（6）

一般常識 試験体験

～就職のための一般常識チェック～

●目的：就職試験で問われる一般常識の内容を知り、準備を始める

この授業では一般常識試験についての出題分野、内容などを知り準備を始めるきっかけを作ります。

●目標：自分が既に持っている知識、情報とそうでないものについて認識する。

この授業で、一般常識問題を実際に解答してみて、自分が既に持っている知識、情報とそうでないものについて認識します。

●準備するもの

ストップウォッチ（グループワークなどの活動時間の管理）

●授業の組立て

1. 一般常識の定義付け
2. 内容の理解
3. 試験問題の体験
4. 試験の感想を話し合う
5. 試験対策

1. 何が「一般常識」なのかを知ろう。



活動 1) 何が常識で、どのような分野のものが出題されるかを知る。

一般常識問題は、本来日本人大学生に対して、当然知っているべき知識を問うものです。世間一般の幅広い分野について質問が出るということを紹介します。そこには留学生にはなじみのない分野や知識があると思われます。まずこの点をしっかり意識させます。

2. 試験の出題内容を知ろう。



活動 2) 出題される問題の分野について知る。非常に幅広いジャンルから出題されるということを知る。

この授業では、どのような分野から出題されるかをまず全員で共有します。問題サンプルを授業後半で体験しますが、内容を確認しながら、それぞれのジャンルからサンプルを一つずつ提示して、全員で考えながら進めても良いでしょう。あるいは一通り確認してから、まとめてサンプルに取り組むことも可能です。学生のレベルなどに応じて、適宜調節します。

3. 実際に体験してみよう。

50分 (解題 20分／解答解説 30分)



活動3) 問題サンプルを体験する。

問題サンプルの解答作業を行います。読みのわからない漢字、意味のわからない語彙については後で説明を加えます。一般常識問題は考えて答が出てくるものは多くありません。人名や地名などを中心に聞いたことがなかったり、知らないものがあったりした場合、設定時間よりも早く切り上げてかまいません。その場合は他の問題を追加で行います。そのために問題はリソース集のもの以外にも何か参考書などで準備しておきます。

4. 試験体験の感想を話し合おう。

10分



活動4) 試験問題の難易、内容などについて感想を話し合う。

難しかった問題とその内容について話し合い、適宜発表の時間を取ります。

5. 試験対策について考えよう。

10分



活動5) 試験に向けて何を準備するかを紹介する。

一般常識試験のスコアを上げるためには、幅広いジャンルを広く浅く知っていなければなりません。そこで日頃から新聞やインターネットで情報を収集する、用語辞典などで準備するなど一般的な対策を活動冊子では紹介しています。しかし、それ以外に各教育機関での独自の対策指導法や資料があれば、ここで紹介します。紹介の時間を節約するために資料配布としてもかまいません。

● 次回の授業

第12回の授業は、冒頭で、「コース修了時診断テスト」を5分程度で行ってから、活動に入ります。

Part 4 まとめ

第12回 己を知る（1）

自己の現在を評価する

～就活 can do チェックシートで自己を評価し、戦略を考える～

●目的：自己の現在を客観的に評価し、就活プランの手がかりにする

今回からの3回の授業で、学生が自己の就活プランを作成し発表するという就活コースのゴールに繋がります。そのために、まず学生は自己の現在を客観的に把握し評価する必要があります。就活 can do シートに自己の現在を記入することで、基礎学力・専門知識・社会人基礎力・就活力を自己評価し、就活の戦略を考えます。

●目標：can do チェックシートで、現在の自己の能力を客観的に評価する

- ・ can do チェックシートで自己の能力を客観的に評価できる
- ・ 自己評価を仲間と共有し、互いに評価し合うことができる
- ・ 仲間の意見を聞き入れ、必要に応じて自己評価が修正できる
- ・ 就活計画が図表化でき、文章で説明できる

●準備するもの

電卓

●授業の組立て

1. 就活 can do シートに記入する

4つの項目ごとに1～5で自己評価し、合計欄に結果を記入する

2. 記入結果をグラフにする

「私の就活 can do バランス」のグラフを作成する

3. 現在の自己評価について、仲間の意見を聞く

自己評価を仲間と共有し、評価結果についての意見を出し合い、修正をする

4. 自己の現在を評価し、戦略を考える

自己の能力の課題を発見し、改善計画を就活計画に組み入れる

●授業の進め方

1. 就活 can do シートに記入する

30分



ワークシートの就活 can do 項目を読み、□に1~5の数字を書き入れよう。

活動1) 各自が就活 can do シートを読み、1~5で評価する。

活動1に入る前に、基礎学力・専門知識・社会人基礎力・就活力の定義を提示します。基礎学力は「読み・書き・算数・基本 IT スキル等」、専門知識は「仕事に必要な知識や資格等」、社会人基礎力は「コミュニケーション能力、実行力、積極性等」、就活力は「就活に関する知識や実行力」としてあります。評価基準の1~5は、1と5が反対にならないよう学生に注意を促します。また、教師はシート記入の際に学生を観察し、正しく理解し記入できるようサポートします。

2. 記入結果をグラフにする

5分



4つの項目の合計をワークシートのグラフに書き込み、現在の自分を評価しよう。

活動2) 4つの項目の記入合計を表に記入、グラフ化し、就活バランスを見る。

特に注意することはありません。念のため計算用に電卓を用意しておきます。

3. 現在の自己評価について、仲間の意見を聞く

30分



仲間から指摘されて、自分でも納得して、評価が変わった点を書き出そう。

活動3) 自己評価を仲間と共有し、評価をより客観的にするために互いの評価について意見を出し合い、納得できれば評価を修正し、グラフに書き込む。

特に自己評価の際に確信が持てずに記入したものがあれば、仲間の意見を積極的に求めるように指示します。評価についての意見を述べるときは、「なぜそう思うのか」という根拠を具体的に示して相手に分かりやすく説明することを意識するよう促します。活動をペアでなくグループにすることで、複数の仲間から効率的に意見を聞くことができます。

4. 自己の現在を評価し、戦略を考える

25分



就活計画作成と実行のために、特に力を入れることを書き出そう。

活動4) 自己評価を修正し評価の高いものと低いものに注目し、戦略を考える

評価が4以上と2以下のものをチェックし、今後さらに充実させるものと課題として改善の必要があると思うものを、どう就活計画に組み入れるのか考えます。次回の授業で就活計画を立てるにあたり、「早期」か「長期的」か「同時進行」か「直前」か、などタイミングの重要性について意識できるよう指導します。

第13回 己を知る（2）

私の就活プランはこれだ！

～現在の自分を評価し、就活プランと学習プランを立てる～

●目的：就活を成功に導くために、自分を把握した就活プランと学習プランを立てる

「就活へ！はじめの一步」のコースのまとめとして、これまでに学んだ知識とスキルを活かした就活計画を考えます。現時点での自分自身の状況を客観的に判断し、学習と就活の両面での行動を計画します。また、仲間と計画を共有し、互いに評価できる点は参考にし、問題点は一緒に考えアドバイスし合うなど、仲間とともにゴールを目指すことを再確認します。

●目標：現時点での自分の学習プランと就活プランの発表準備ができる

就活計画が図表化でき、文章で説明できる。

●準備するもの

PC/ストップウォッチ

●授業の組立て

1. 自分の学習についてのプランを立てる
単位取得、卒業論文、SPI 対策など
2. 自分の就活についてのプランを立てる（活動冊子 p.13 の就活計画を参照）
情報収集、企業へのアプローチ、自己PRのための自己振り返りなど
3. 自分の就活についてのプランを仲間と共有する
「三人寄れば文殊の知恵」を活かす
4. 私の就活プランはこれだ！
自分の就活プランを練り上げ、他者に伝える準備をする

●授業の進め方

1. 自分の学習についてのプランを立てる
大学の授業と日本語学習を並行して進めよう。

20分



活動1) 学習プランを考え、計画表に書き込む。

単位取得や、卒業論文、SPI、一般常識テストの準備など学生が計画的に学習を進めるための「タイミング」が意識できているか観察します。

2. 自分の就活についてのプランを立てる（第4回を参照）

20分



情報収集、企業へのアプローチ、自分の振り返りなどを計画しよう。

活動2) 就活プランを考え、計画表に書き込む。

1) 自分が働きたい業種、職種が目標として定められているか、2) 就職ガイダンス、資料請求、OB/OG訪問、説明会／セミナー参加／Webエントリー／エントリーシートなどの就活用語を理解して計画ができているか、3) 社会人基礎力における自分自身の課題が意識されているかなどを活動観察のポイントにします。

3. 自分の就活についてのプランを仲間と共有する

20分



比較し、修正し、仲間とゴール到達を目指そう。

活動3) 作成した計画表を互いに評価し合い、内容やタイミングについてアドバイスをもとに修正を行う。

内容はどうか、タイミングはどうか、実行可能かなどのポイントを明確にした話し合いができているかを観察します。時間内にグループの全員の評価やアドバイスがし合えるよう、時間配分にも留意します。

4. 私の就活プランはこれだ！

30分



自分の就活プランについての発表の準備をしよう。

活動4) 修正した計画表をもとにして、発表の準備をする。パワーポイントの作成は授業外の時間で個々に進める。

活動4は、次回の発表に向けての準備として行います。発表の内容を文章化するところまでが時間内に行えるように、適宜学生をサポートします。パワーポイント作成は授業時間外の作業としますが、作成が行える状況にある学生は授業内の作業とします。学生に発表時間とパワーポイントの頁数を提示し、厳守の旨を伝えます。次回の授業では、学生全員の就活アクションプラン発表および相互評価がゴールに

なります。当日までの準備は、「ピアを活かし、全員のゴール到達のために助け合うこと」をミッションとして伝えます。

第14回 いざ出陣！

これが私の就活アクションプランだ！

～就活成功への第一歩は適切なアクションプランから～

●目的：就活アクションプランを発表し、仲間との共有を図る

コース修了にあたり、これまでの学習で学んだ知識やスキルを活かして作成した自身自身の就活アクションプランを仲間に発表します。それぞれのアクションプランを共有し、相互評価をし、就活成功への決意を新たにします。

●目標：自分と仲間の就職成功に向けて、行動を開始できる

- ・自分の就活プランを、3～5分で発表できる
- ・仲間の就活プランを聞き、評価ができる

●準備するもの

PC／プロジェクター／スクリーン／ビデオカメラ／評価シートのコピー
(学生記入用)

●授業の組立て

1. 発表をし、相互評価シートに記入する
2. コース修了にあたり、再度決意表明をする

●授業の進め方

1. 発表をし、相互評価シートに記入する

75分



自己のプランを発表し、仲間のプランを評価しよう。

活動1) 一人ずつ就活アクションプランを発表する。聞いている学生は仲間の発表を評価する。

発表前の準備として、機材のセットやビデオカメラの設置を授業開始前に行います。授業開始後すぐに発表が行えるよう、学生のパワーポイントの準備も指示しておきます。発表時間は5分を限度とし、時間内に終わらない場合はそこまでで終了とします。決められた時間を守れないのは課題達成能力の欠如としてマイナスの評価に

なります。学生の人数により活動の時間を調整してください。人数の少ないクラスでは、発表も質疑応答も余裕を持って行えますが、人数の多いクラスの場合は、発表を3分以内にするなどの調整が必要です。コース最終回の授業内で、学生全員がアクションプランを発表できることが今回の最大の目標です。発表と相互評価については、学生への指示事項を参照してください。

- ・評価項目と配点は以下の通りです。

目標設定 5	現状把握 5	計画性 5	発表 5	総合評価 20
目標がはっきりしているか	課題が自覚できているか	目標に合った計画ができているか（時期／活動内容）	分かりやすいか／時間内に終わったか	1~4の合計点

学生は相互評価シートに記入し、仲間のアクションプラン発表を評価します。教師は、各自がコースで学んだ視点を生かして客観的評価をするよう促します。

- ・評価基準は、

5 とても良い 4 まあ良い 3 良くも悪くもない 2 あまり良くない 1 悪い

教師も学生と同じ評価基準で評価をします。発表者をビデオ撮影し、評価の参考にします。学生の評価記入後のシートは回収し、個々の学生の評価の平均点を仲間からの評価とします。学生と教師の評価を合わせたものを総合評価とします。（配分は学生50% 教師50%）

1. コース修了にあたり、再度決意表明をする

15分



自分と仲間の就活成功を確信し、行動を開始しよう。

活動2) 自分と仲間の就活成功に向けての一言を一人ずつ発表し、クラス全体での振り返りとする。

コース全体を通しての振り返りをするために、自分と仲間の就活成功に向けての一言を一人ずつの発表とします。全14回の授業を振り返り、学生全員が自分の言葉で「就活」および「仲間」について語ることは、このコースのまとめとして大変重要です。教師は学生一人一人の発表を傾聴と受容を持って聞きます。

◆各回のキーワード

- 1 就活 孫子 敵を知り己を知れば百戦危うからず 仲間 内定 支え合う 書類
審査 決意表明
- 2 情報収集 資料請求 OB・OG訪問 説明会 採用試験 面接 筆記試験
適性検査 志望動機 エントリー(シート) インターンシップ 履歴書
- 3 就職状況 就活計画 仕事に就く 職種 待遇
- 4 勝ち抜く 体験記 分担 見習う 動機 時系列 コンタクトを取る 決め手
- 5 生の情報 ～を活かす 福利厚生 将来 貢献 貴重
- 6 マナー 基本中の基本 情報誌 検索 催促 給与 待遇 勤務形態
- 7 社会人基礎力 職場で求められる能力 活躍(する) 前に踏み出す力
考えぬく力 チームで働く力
- 8 人事担当者 立場 応募者 求める側 求められる側 打ち込む エピソード
- 9 マナー 話し手 聞き手 好印象 印象に残る フレーズ 質疑応答
- 10 技能 適性検査 一般常識 用途 業務遂行能力 バイタリティ 落ち着
き パーソナリティ
- 11 重視 時事問題 マスター(する) 力試し 筆記試験
- 12 評価 回答(する) 基礎学力 就活力 充実させる アクションプラン
- 13 相互評価 計画性
- 14 就活成功 目標設定 現状把握

*授業各回のキーワード

活動冊子の最終ページに各回のキーワード集をつけました。
語彙クイズや学習者の夜復習に使用してください。



○監修

財団法人 海外技術者研修協会

○執筆者

山本弘子 カイ日本語スクール 代表
松尾恵美 カイ日本語スクール 専任講師
中村和弘 カイ日本語スクール 専任講師
倉本文子 カイ日本語スクール 専任講師
深澤道子 カイ日本語スクール 非常勤講師
増田アヤ子 カイ日本語スクール 非常勤講師
松本直美 カイ日本語スクール 非常勤講師

○イラスト

柳原満月

※執筆者の所属は教材作成時（平成 19 年度）のものです。

本教材は財団法人海外技術者研修協会が経済産業省より受託し実施した「アジア人財資金構想・共通カリキュラムマネジメントセンター事業」の一環として開発されました。

監修

財団法人 海外技術者研修協会

〒120-8534 東京都足立区千住東 1-30-1

電話 03(3888)8211

<http://www.aots.or.jp>

2011年3月

©2011 The Association for Overseas Technical Scholarship (AOTS)

不許複製・転載